

A:水辺の景観まちづくり活動

日時：平成22年8月6日(金) 14:30 ~ 16:30

朝からお昼にかけて船上より荒川・中川沿いの周辺のまちなみ眺め、景観について見直しをしました。その後、感想および今後の活動プランづくりについての話し合いを行いました。

～河川・海の上から陸をみて～

- ・河川敷や海辺には、人の気配をかんじない。よい景観とは、人がいる、人が集まることではないか。
- ・荒川は、川幅が広いので、インパクトがある。
- ・中川には、『うなぎ』が生息していることに驚いた。



～ロックゲートを通して～

- ・荒川と隅田川をつなぐゲートであると思っていたが、災害時の復旧活動において防災ネットワークとしても機能していることが分かった。

～新たな活動プラン～

- ・新川でカヤック・カヌーを浮かべる。
- ・旧中川において、秋口に『はぜ』釣り大会を開催し、親子で楽しめる活動を行う。
- ・魚を孵化させ多くの生物が住めるような河川環境をつくりたい。
- ・堤防の斜面の部分に絵を描き、絵のコンクールを開催する。
一つのテーマにすることで一つの景観になる
- ・護岸において川をバックに演奏会を開催する。
人々が多く集まる景観づくりを行う。
- ・中川左岸においてゴミ拾い活動や草花(花壇等)を植える。
みんなが集まることで活動ができる。

～みんなの思い～

人がいる空間をつくりたい
そのためには、何をしたらいいの？
行政ではなく、自分たちで、今できることは、なあに？
大きいものを小さな範囲で少しずつ積み重ねていけば、大きなものに育てあげることができるよ。



全体のビジョンがあり、少しずつ景観をつくっていききたい。
河川の空間を上手に使い、生活の近くで係わるようにしたい。

次回第2回ワークショップでは、これらの意見を活動にしていけるにはどうしたらいいかを考えていきます。

B:緑豊かなまちづくり活動

日時：平成22年7月22日(木) 13:00 ~ 16:00

Bグループの参加者である齊藤さんが実際に活動している場所をメンバーで見学し、その後、見学の感想および今後の活動プランについての話し合いを行いました。

活動者の視点から

水やりが簡単にできる施設がほしい

- ・実際の活動では、朝晩2回の水やりが一番大変。もう少し楽にできる施設があると良い。
- ・緑のいろいろな使い方
花だけでなく、野菜を育てることで子どもたちの環境学習になるようにしている。
- ・鉢植えを置いて空き家の防犯対策をしている。



街をきれいにするための価値をみんなが理解することが大事

- ・清潔で美しい環境づくりをすることが一番モチベーションになる。
- ・緑は共有財産。みんなのために花を育てている。
- ・みんなが「美の価値」を見だし、共有していくことが重要。
それには、日々の掃除や整理整頓など基本的なことを続ける。
ゴミを拾うだけでなく、枯れた木を新たに植え替えていけば、街がきれいになり、ゴミが捨てられなくなるのではないか。



「知るきっかけ」づくりがもっと必要

- ・1人で活動を続けることはとても大変。みんなが、がんばっている人を知り、認めることが必要。
- ・活動情報の他にも、具体的な活動内容や樹木の手入れの方法なども知りたい。
- ・区の広報やホームページ、町会の回覧板などでいろいろな情報を発信する。

次回までの作業 ～活動の種について考えてみよう～

活動の種の候補

- 身近な緑づくり(アジサイ街道づくり・緑の植え替え・・・)
- 「知るきっかけ」づくり(広報やスーパーの掲示板・・・)
- 親しみのある「農」づくり

C:歴史の発掘・保全活動

日時：平成22年7月31日(土) 13:00 ~ 15:00

各自が持ち寄った資料や、思い出の中の目では見えない風景を披露し合いながら、江戸川区の歴史について理解を深めました。今後は、とある街道とその周辺に場所を絞りこんでより詳細に検討を進めることになりました。

活動の種 ～歴史の変化のタイミングを考える

- 総武線の開通とともに人口が増加し、まちが広がっていった。
- ・鉄道駅を中心に商店街が発達していった。
- ・トロリーバスも懐かしい思い出(“切り換え時の火花は昼間に見る花火のようだった”)。
- 終戦後、東京オリンピックの時期に一番大きく風景が変わった。
- ・昔の小岩は真っ黒いどぶ川が流れ、“蚊”岩と呼ばれるほど蚊の多い場所だった(“蚊帳がかかせなかった”)。



活動の種 ～人や物の通り道からまちの歴史を考える

- 人や物が行き来する道や川に関連して歴史的な蓄積が多くありそうだ
- <道・街道にまつわる歴史>
 - ・道の歴史を示すものとして、今も道標・一里塚・関所跡が残っている。
 - ・橋や渡しも道と関係が深い歴史や景観資源である。
 - ・常燈明や塩の道というも気になるキーワードである。
 - ・街道を通る人向けに、農家の副業として傘づくりが盛んだった(“お寺の境内にできあがった傘を並べて干していた風景を覚えている”)。
- <川まつわる歴史>
 - ・川の側にはお寺も多い。掘削にあわせて移動したというお寺もある。
 - ・50年前には帆掛け船が川を通行していた。
 - ・小松川の辺りでは、鶴御成という鶴を捕らえる鷹狩りが行われたそうで、昔は鶴が集まる場所であったらしい。

次回までの作業 ～「行徳道(現 今井街道)」について調べよう

- 郷土資料室で「行徳道」の現状について確認する。
- 「河原道の方が面白い」とのアドバイスを受けた。
- 「行徳道」の周辺について更なる情報収集を進める。
- 各自興味のあるテーマについて調べてみる
- 代々近くに住んでいるまちの人に話を聞いてみる
- 区間を決めて実際に歩いてみる
- 歴史を活かすアイデアについて、取組の具体例なども調査する。